2021
年次報告書

Jumma Net

私たちは、多民族の境界線で起こる紛争解決に特化したNGOです

安心をすべての人に

ジュマ・ネットは2002年、バングラデシュ・チッタゴン丘陵地帯の少数民族支援と平和構築活動を目的に活動を始めました。これまで教育支援、国連を活用したアドボカシー活動、平和のための委員会結成呼びかけなど、和平のための取り組みを展開してきました。近年では国家や民族がもたらす分断を克服し、共存できる地球社会「グローバル・コモンズ」形成を見据えて活動しています。

India

北東インドのアッサム州の市民権を奪われた人々への支援活動

アッサムでは不法移民(主にバングラデシュ)への反感が強く、2013年から「全国市民登録簿」を更新し、外国人を摘発するための基盤を作ろうとしています。2019年にその更新版の名簿が公開されましたが、登録申請をした3300万人のうち、190万人が名簿から漏れており、登録されなかった人たちに危機感が広がっています。ジュマ・ネットは市民権問題の被害に遭っている人たちを中心に支援を始めました。①全国市民登録簿が甚大な被害を与えた子どもたちへの教育支援、②拘留された人々を中心とする生活支援、③元被抑留者の間での自助組織の結成です。しかし、コロナ禍によって多くの人々を集めるミーティングが困難になったため、2021年度の活動は①教育支援と②生活支援に絞られました。また、市民権問題の課題喚起のため、平等研究財団が作成した映像を翻訳し、日本社会で発信しました。

トリプラ州の人権団体エンパワーメントの実施

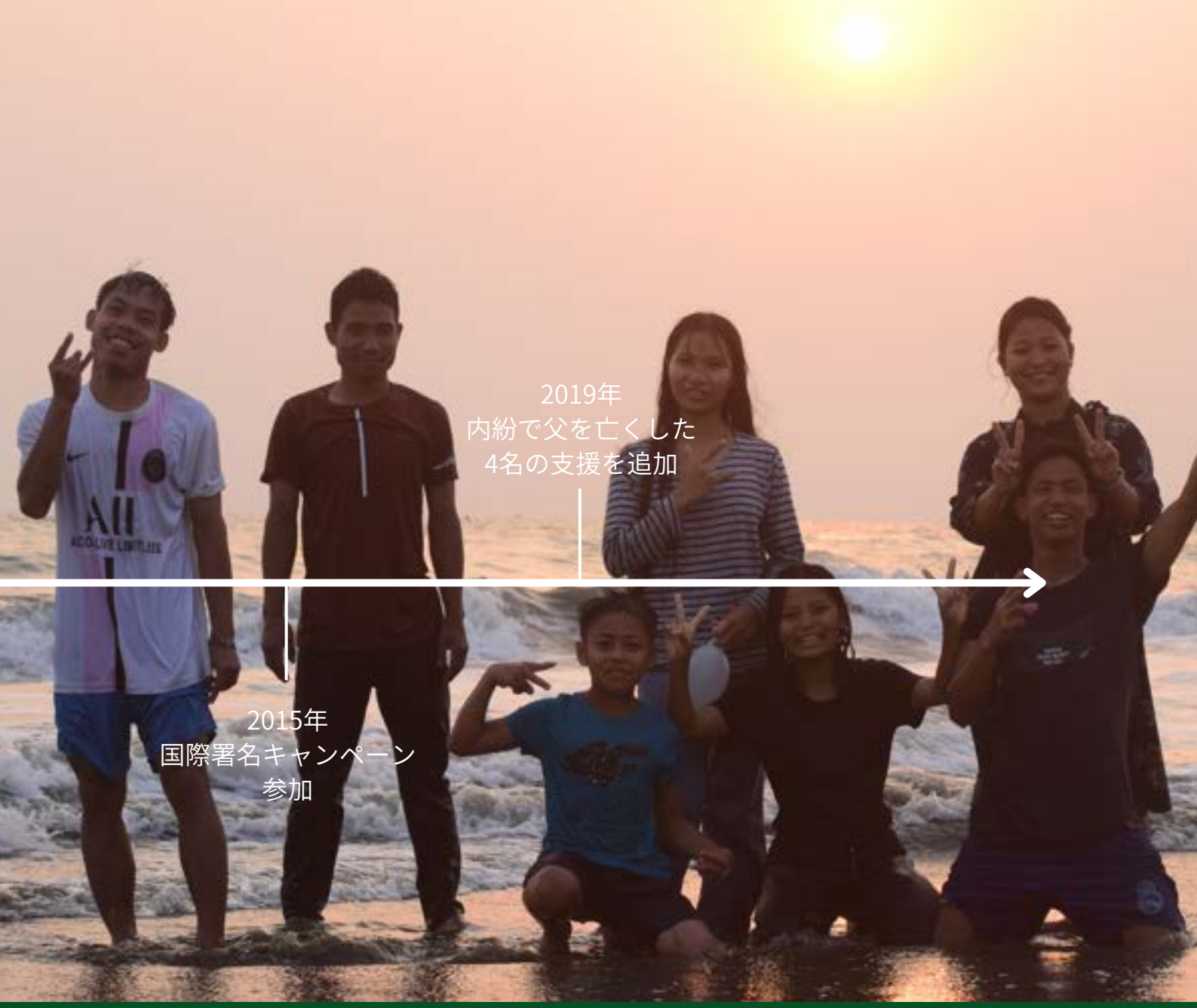
インド・トリプラ州はベンガル人の流入が続いており、先住民族のトリプラ民族は、エスニック・マイノリティ化が進んでいます。州の政治や政策もベンガル人中心の傾向が強まり、民族対立意識から生まれる抗争やトラブルが絶えない状況です。トリプラ民族の人権を守るための唯一の組織である、Borok Peoples Human Rights Organisation(BPHRO)の組織強化を図るよう支援を開始します。特に人権侵害と土地問題を国際社会に伝える組織力を強化すること、及び人材育成に取組みました。

Bangldesh

チッタゴン丘陵地帯

ジュマ・ネットはチッタゴン丘陵の内紛が原因で修学機会を失った児童・生徒を対象に奨学金を提供し、学習支援を2007年より続けてきました。父親が殺害された、ベンガル人入植者に土地を奪われた、レイプ被害にあった等、深刻な被害を受けた家族の児童・生徒を、現地スタッフと慎重に選考して、決定しています。選考された児童・生徒は、チッタゴン丘陵地帯のランガマティ県にある寄宿学校モノゴールで、親元を離れて学ぶことになっています。2021年度は11名の生徒の支援を継続しました。また昨年11月にモノゴールと日本でビデオ会議を実施し、交流会を行いました。今年3月には6名の子どもがコックス・バザール県でのプラスチック調査に挑戦するなど、地域の枠を超えた、新たな経験の機会を提供することができました。

前述の通り彼ら彼女は、紛争や内部抗争による事件の被害者や、多大な影響を及ぼさ



紛争被害児童支援

れた子どもたちです。例えば調査に参加したメンバーのシリカの父親は2010年に殺害されてしまいました。当時、バングラデシュのランガマティ県で軍人の暴行に耐えかねたジュマの暴動が発生。その際に、軍人が銃を発砲し、父親が犠牲となりました。その際、残された子供たちである兄のリトンとシリカは、父を失った悲しみだけでなく、家計も非常に厳しい状況に陥りました。ジュマ・ネットは、2011年から２人の教育支援を開始し、2人は現在もランガマティ県の寄宿舎学校モノゴールで学んでいます。兄のリトンは大学進学へ向けての勉強を続けています。シリカも、一時は勉強につまづいた時期がありましたが、再び励んでいます。

「これまで多くの人が僕を助けてくれたように、僕も人のためにできることをしなくてはならない。」兄リトンから発せられた言葉に、確かな成長を感じています。

ジュマ・ネットが支援する紛争被害児童

計 12 名

リトン・チャクマ
18歳で大学生になります。軍人に父を殺され、妹のシリカと一緒にモノゴールにやってきました。大学での学びを支援します。

シリカ・チャクマ
16歳で10年生です。兄のリトンとモノゴールにやってきました。試験合格を目指し、支援を継続します。

ノンディニ・チャクマ
9年生です。父が2018年に殺されました。英語が好きで、数学が苦手です。休みは友達と話をして過ごすことが好きです。

アウワ・マルマ
10年生です。悲しい事件に遭ってモノゴールにきました。休みの日は同級生と話したり、本を読んだりして過ごしています。

モンプリ・チャクマ
11歳で、6年生です。小さい頃悲しい事件に遭い、勉学をつんで自立する決意をし、モノゴールにやってきました。最近は友達もでき、笑顔が多くなってきました。

イティモニ・チャクマ
13歳の10年生です。モノゴールに来て、もう6年目になります。小さいころ悲しい事件に遭い、ジュマ・ネットの支援で、モノゴールで学ぶことになりました。

トゥンパ・チャクマ
12歳で6年生です。姉のエリと一緒に、モノゴールにやってきました。父親が対抗する武装グループに殺害されました。

リペン・トリプラ
17歳で高校生です。家庭が非常に貧しく、周辺のベンガル人に脅される生活だったため、モノゴールで学んでいます。

オジェン・トリプラ
今年から新たに支援児童に迎えました。12歳で7年生です。家族を亡くし、非常に貧しい環境に置かれています。

メンワイ・ムロ
17歳の9年生です。父が政治グループに殺されてしまいました。交通費を自ら貯金して、モノゴールに戻ってきました。

フォンワイ・ムロ
今年から新たに支援児童に迎えました。9歳、4年生です。非常に貧しい家庭の上、父親の病気により就学が困難な状況にありました。

トゥンプレム・ムロ
9年生です。軍が土地収奪をしたことで、焼畑農業に苦労しています。8年生からスポンサーチルドレンとなりました。

バタイヤ村小学校支援

バタイヤ村は、バングラデシュ、チッタゴン丘陵バンダルバン県の山間の谷間にある、70世帯ほどの家族が住む小さな村で、ムロと呼ばれる人々が住み、焼き畑で生計を立てています。バタイヤ小学校には約70名の子どもが通っており、まだ政府支援を受けていません。ジュマ・ネットは2年前からこの小学校の教員の給与、文具や教材の提供を続けています。このを支援を決めた最大の理由は、近くに駐屯する軍人が、不当にムロの広大な土地を取り上げ、逆に地代を強制しているという実態を知ったからです。その境界線はこの小学校の横まできています。こうした実態を観察する意味でも、支援の必要を感じたからです。もう1年支援を継続し、なんとか政府の小学校として認定されるように働きかけていこうと思います。

letter from Bangladesh

コックスバザール調査の思い出

現地通信員 田中志歩

今年4月に、海洋プラスチック調査にジュマネット・スポンサーチルドレン6人と、OBのシンヨンと一緒にコックスバザールに滞在しました。今回はモノゴールの外で子どもたちと過ごすことは、私にとっても学校外で会う機会は初めてだったので、いつもとはまた違ったみんなを見ることができ、感動の日々を一緒に過ごすことができました。今回はみんなの初めて尽くしの2泊3日の濃密な経験を皆さんにご共有させていただきたいと思います。

子どもたちは全員初めてコックスバザールに来たので、丘陵地帯以外のバングラデシュを見るのが初めて。海も、外食も、コーラも、エレベーターも色んなこと全部が初めて！滞在中終始目の輝きが絶えず、調査中、ご飯中、就寝前、移動中、全員がそれぞれ私にいろんな発見を伝えてくれました。1つ1つの瞬間を全身で受け止め、言葉にしようとし、学校でみんなに話したいことをまとめている姿が印象的でした。

中でも、みんなの興奮が最高潮だったのが「海」でした。普段山に暮らす皆に海で遊ばせてあげたいと意気込んでいた私をよそに、午前中に調査で海に連れて行ったときには、誰一人海に目もくれずに調査に一生懸命に取り組んでいました。その様子に「あら？あんまり海は興味がないのかな？」と感じていたのですが、調査終了後の夕方に時間ができたので、みんなで宿泊施設の近くの浜辺に行こうと私が一応提案したところ、「え！？ほんとに！？海に行けるの！？」と、お祭り騒ぎ！始めは私の後ろをついてきていた皆でしたが、男の子たちがたまらず、「向こうで待ってるね！！」と、駆け出して行ったのを皮切りに、女の子たちも最初は恥ずかしがっていたものの、「先に行っていいよ」と、声をかけると、飛び跳ねるように海に向かっていきました。私はゆっくり歩いて後を追いかけながら、遠浅のコックスバザールの海に皆が入っていくのを遠目に、歓声が次第に大きくなる様子を耳にしながら、みんなが今まで背負ってきたつらくて大変な過去を知った日を思い出しました。政治活動や土地収奪で家族を殺された子、性被害に遭った子、初めてあった時に見せたこわばった顔、インタビューに過去を思い出して涙する姿。

みんなの過去は変えることができないし、一人一人が過去と向き合いながら生きていかなければなりません。それぞれが色んな過去を抱えながら、今を全力で楽しんでいる姿を見て、これからいろんな経験をして、みんなの人生が充実したものになって欲しいなと強く想いました。これからの皆の成長をジュマネット・スポンサーの皆さんと一緒に見守っていきたいです。

グローバル・コモンズ

クラウドファンディング実施

「マイノリティの子供達が、途上国のプラスチック調査に挑戦」をテーマに、2022年2月から3月にかけてクラウドファンディングを実施しました。これまで20年をかけて取り組んできた民族対立の現場に、環境・ライフスタイルの視点を組み込んだ、新しい挑戦でした。
内容は、寄宿舎学校モノゴールで奨学金支援を行う児童のうち6名が、コックス・バザール県の沿岸・漁港周辺でプラスチックごみ廃棄の実態を調査するというものです。テーマもさながら、コックスバザールを訪れるのが初めての子どもも多く、様々な思いが交錯する中でプロジェクトが始まりました。

1ヶ月間のファンドレイジングを通して、64名の方々から温かいご支援をいただきました。結果、54万3千円の寄付を集めることができました。2022年3月30日から4月1日にかけての3日間、子どもたちによる調査を実施することができました。調査に参加する子どもたちは、海を初めて見る興奮や新たな経験に、胸を弾ませながら取り組むことができました。事前学習から実地調査までを行い、子ども達の意識にも変化が見られました。
ご支援者の方々には、報告書を送付予定です。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

7

実現のために

オンラインイベント定期開催

マイノリティ、国際協力、プラスチックなど、ジュマ・ネットが掲げるビジョンをもとに、オンライン勉強会を8月から実施ました。8月は無国籍をテーマにロヒンギャを、10月はアッサム州の市民権問題、11月はモノゴールとの交流、12月はプラスチック、年明けにはアーユスNGO大賞記念講演を実施しました。とりわけ11月のモノゴールとの交流では、国境を越えたコミュニケーションが実現しました。ご参加いただいた皆様から子どもたちへ向けて、たくさんの質問をいただきました。最後は子どもたちからの逆質問も行われました。年明けの記念講演会では、これからの時代のNGOの姿を、参加者の方々と一緒に模索する時間となりました。半年間で延べ100人以上の方にご参加いただくことができました。新型コロナウイルスの流行という制約が、逆説的に新たな繋がりを生み出せたことは、ジュマ・ネットとしても成果と感じています。

今後もイベントを通し、ジュマ・ネットが取り組む課題についての周知と市民参加を促進していきます。ぜひ、ご参加いただけたら幸いです。

（最新情報は、Facebookを中心に発信しています！ぜひ、いいね！＆フォローをお願いいたします！）

Column Column Column Column

Profile

稲川望（いながわ のぞみ）
1997年生まれ、静岡県出身。大学2年生の時にロヒンギャ難民に出会い、衝撃を受ける。大学在学中に1年間バングラデシュでインターンを経験。2021年4月よりジュマ・ネット事務局長。

コラム：私の原点～ロヒンギャ難民キャンプの衝撃

稲川望　事務局長

2021年4月に事務局長就任から1年が経ちました。未だに右も左もわからない日々ではありますが、少しずつ試行錯誤を重ねつつある今日この頃です。皆さまには、平素より物心両面での多大なご支援ご協力、心より感謝申し上げます。

今回はせっかくですので、私の思いについてお話させていただければと思います。私がこうした活動に強く入り込むようになった最初の転換点は、2017年に訪れたバングラデシュです。そこで私は、歴史的な事件に遭遇しました。隣国ミャンマーで、軍を中心とした組織的虐殺・暴行が発生。結果、毎日数万人規模の難民がバングラデシュに逃れてきている現場に立ち会うことになったのです。国境付近に近づいていくと、言葉を失う状況が広がっていました。親とはぐれて座りこむ少女、息をしていない赤子、国境を超えてわずか１時間足らずの家族。親族を殺されたとつぶやく母親。当時20歳だった私の人生の経験では、とても受け止めることなどできない惨劇でした。しかし同時にそれが、国際協力にのめり込んだ大きな契機だったとも思っています。

その日、宿泊先に戻ると同時に支援の計画を立て始めました。滞在中からファンドレイジングに取り掛かり、帰国後は報告会を通して、出来る限りのことをしました。今でも、あの時突き動かされるように行動した自分に対して不思議な感覚を覚えます。しかし、あの日現場で出会った人、話しを聞かせてくれた人々に対して何かできないか、そんな思いが原動力になっていのだろうな、と思います。そして緊急支援活動が一旦区切りを迎えた後も私の熱は冷めることなく、半年後には大学を休学し、バングラデシュでの生活をスタートしていました。そうして目の前のことに取り組んでいるうちに、ジュマ・ネットで活動するチャンスをいただきました。まだ1年間という時間の上、コロナによる渡航の制約が重なる中での活動ではありますが、自分が本当に大事だと思えることに真正面から取り組めるこの活動に、誇りを感じています。

世界の課題の前で、私はあまりに無力で、あまりに無謀に見えるかもしれません。でも、同じ時代を生きている人間として、何かできないだろうか。そんな希望を持って、丁寧に活動を積み重ねていこうと思います。今後もぜひ、活動と地球社会を共に見据えていくことができれば幸いです。よろしくお願いいたします。

Topics

ジュマ・ネットよりお知らせ

マンスリーサポーターのご支援をお願いいたします！

ジュマ・ネットでは現在、活動を応援してくださるマンスリーサポーターを募集しています。
マンスリーサポーター制度とは、ジュマ・ネットの活動に共感いただいた方々に毎月任意の金額をご支援いただく制度です。月1000円からお気軽に始められます。いただいたご支援の活用先、ご支援の方法は以下のリンクからご覧いただけます。未来の地球社会を担う仲間になっていただけませんか？
（詳細・ご支援は右図のリンクからご覧ください。）

メールでお手軽にニュースを受け取れます

ジュマ・ネットは今年度よりメールマガジン配信を開始しました。活動報告や現地情報、またご支援者様限定配信などもございます。スマホでお気軽に無料でご覧いただけます。配信をご希望の方は下図から、またはinfo@jummanet.orgまでご希望の旨お送りください。

ホームページをリニューアルしました

ジュマ・ネットのホームページがリニューアルされました。温かい雰囲気のもと、これまでの活動・ビジョンを簡潔にまとめています。下図から、または以下のアドレスよりご覧ください。
https://donate.jummanet.org/

20周年特別ページがオープン！

20周年を迎えるにあたり、新たなプロジェクトや特別事業が行われます。今回、20周年事業にフォーカスした特設サイトがオープンしました。サイトには、20周年に対するメッセージを書き込める掲示板もございます。ぜひ、みなさまからのお声をいただければ幸いです。（20周年特別事業の詳細はページをご覧ください。）

アーユスNGO大賞

2021年10月に、下澤個人としてアーユスNGO大賞（茂田賞）を受賞されました。そして2022年3月には、関係者による授賞式が開催され、賞状、記念品、賞金の授与があり、その後「脱NGOと グローバル時代の共存協力」の講演をさせていただきました。

個人への賞であり、前職のシャプラニール＝市民による海外協力の会での15年間、国際協力NGOセンターでの4年間の業績への評価もあったかもしれませんが、20年の間、無給で続けてきたジュマ・ネットでの活動を一番高く評価いただいたと個人的に感じています。なぜなら、ジュマ・ネットこそ日本のNGO界には数少ない問題意識と実績を作ってきたからです。ジュマ・ネットの最大の問題意識は、「民族意識に基づく統治システム」とその「排除性」です。そのためバングラデシュ、チッタゴン丘陵をはじめ、ロヒンギャ、インド・アッサムの人々の問題を取り上げてきました。そして、今は地球に与える大量消費・大量廃棄という私たちの暮らし方そのものが、私たちの安全を脅かす存在になっています。

共存協力へ

人間の存続のための地球ルール＝「グローバル・コモンズ」を意識した活動に発展させていければと思っています。ジュマ・ネットを支え続けてくれた方々と共に頂いた賞と思い、賞金の50万円は全額ジュマ・ネットに寄付させていただきました。これまで多くの方々に支えていただきありがとうございました。

アーユスNGO大賞とは

アーユス仏教国際協力ネットワークは、仏教僧を中心とした団体です。1993年に設立されました。宗派を超えた繋がり、またNGOを支えていくNGOを目指していることが特徴です。そのアーユス仏教国際ネットワークが毎年NGO界で顕著な活躍をした人材を表彰する活動を行っています。それがアーユスNGO大賞です。今回は貴重な賞をいただきました。ありがとうございました。

20周年へ向かって

ジュマ・ネットは今年で20周年を迎えます。チッタゴン丘陵地帯をはじめとした南アジア地域の平和構築を実現するため、新たなプロジェクトや特別事業を実施いたします。ぜひ、応援のほどよろしくお願いいたします。

20周年特別事業一覧

1 特設サイト開設
20周年事業全体のランディングページ活用
関係者や市民による寄せ書きページも予定

2 特別フォーラム開催
地球社会を考えるハイブリッド型フォーラムの開催
候補者・内容は検討中

3 ユース事業
社会人・学生チームを結成し、活動を展開
現地調査や寄付獲得、フォーラム開催を共に実施

4 特別ファンディング・オンラインキャラバン
20周年の特別基金を開設
全国の支援者を起点に、オンラインで交流会を実施

5 被害女性支援活動
20周年の新プロジェクトとして始動
詳細はページ右をご覧ください

【被害女性支援活動】

チッタゴン丘陵地帯の内部抗争により夫を亡くした女性を対象に、リハビリテーション・職業訓練等を通した支援を行います。2022年度はパートナー選定、現地調査、テストケース等を通し、プロジェクトを円滑に実施できる環境整備を予定しています。

プロジェクト内容

被害女性たちのネットワーク形成・リハビリテーション
チッタゴン丘陵地帯の被害女性がリハビリテーションやセラピーを受けられる場所を提供します。また被害女性同士のネットワーク形成などを通し、心理的なケアを行います。

被害女性のニーズにマッチした支援アプローチ
被害女性の収入向上・エンパワーメントの一環として、職業訓練・商品販売等を予定しています。被害女性の現状・ニーズに沿う形の支援アプローチを調査・開発します。

被害女性と家族の生活再建支援
上記の職業訓練・商品販売等を通して、女性と家族が望む形での生活再建を支援します。支援の結果、収入源が確保され、家族を含め生活を再建することが目標です。

2021年度　ジュマ・ネット特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

［税込］（単位：円）

2022年 3月31日 現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
（現金・預金）		仮受金	0
現金	200,209	流動負債 計	0
当座 預金	3,369,371	負債の部合計	0
普通 預金	1,751,920	正味財産の部	
現金・預金 計	5,320,500	【正味財産】	
		正味 財産	3,005,326
（その他流動資産）		（うち当期正味財産増加額）	2,136,481
仮払金	288	正味財産 計	5,141,807
貸倒引当金	△ 178,981	正味財産の部合計	5,141,807
流動資産合計	5,141,807		
資産の部合計	5,141,807	負債・正味財産の部合計	5,141,807

2021年度　ジュマ・ネット特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

［税込］（単位：円）

自 2021年 4月 1日　至 2022年 3月31日

《経常収支の部》

［経常収支の部］		
【経常収入】		
受取会費	336,000	
受取寄付金	1,924,316	
受取助成金	500,000	
謝金	16,500	
販売事業収益	7,900	
受取利息収入	13	
経常収入 計		2,784,729
【事業費】		
海外事業費	2,321,772	
賃借料	34,480	
通信費	114,833	
業務委託費	255,986	
支払手数料	18,220	
印刷製本費	78,108	
仕入高	6,413	
当期事業費 計	2,829,812	
合 計	2,829,812	
事業費 計		2,829,812
【管理費】		
通信運搬費	5,396	
印刷製本費	1,720	
旅費交通費	42,528	
賃借料	22,000	
業務委託費	6,000	
支払手数料	1,144	
地代 家賃	179,135	
管理費 計		257,923
支出合計		3,087,735
経常収支差額		△ 303,006
前期繰越収支差額		5,443,213
次期繰越収支差額		5,140,207

運営体制

共同代表：下澤嶽　トム・エスキルセン
事務局長：稲川望
運営委員：安達淳哉　木村真紀子　日下部尚徳
監事：　今村公保　井口由美子

20th anniversary

since 2002

ジュマ・ネットは、今年で20年。
ここまで皆様のご支援ご協力のもと、活動を続けられました。
ぜひ、今後とも温かいご支援をお願いいたします。

安心を、すべての人に

ジュマ・ネット

〒132-0033　東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204　小松川市民ファーム内

https://donate.jummanet.org/

info@jummanet.org